

# 越谷市公共施設等総合管理計画 第2次アクションプラン（案）に対するパブリックコメント結果

【区分】①意見を反映する ②意見の反映はしない（考えを説明、今後の参考とする） ③その他

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
1	3 今後の人口予測と財政状況 (2)越谷市の財政状況 【P.20】	必要な支出ではありますが、扶助費の増額が大きいです。予防的削減方法も考える必要があると思います。	児童手当や医療給付費、生活保護費などの扶助費については、本市の歳出予算全体の約3割を占め、年々増加傾向にあります。 本市では、健康体操教室の開催をはじめ、スマートフォンの健康アプリを活用した取組などを通じて、健康づくり・介護予防につながる事業などを実施しております。 今後も、市民の健康づくり等を推進し、引き続き扶助費の削減効果が見込まれる取組についても、実施してまいります。	③
2	4 今後必要となる費用等の算出条件 (3)対象外とする施設 【P.23】	更新費用算出の対象外施設の扱いについて、市立病院は公営企業であることを理由に対象外とされていますが、改修や建替えに伴う借入償還金の一部を一般会計が負担する可能性が明記されており、実質的な市民負担が想定されています。会計区分上の整理と将来負担の見える化との間に乖離が生じているように見受けられます。また、コミュニティプラザ（越谷サンシティ）についても、再整備までの一時的保有を理由に対象外とされていますが、その期間においても市が維持管理責任を負い、市民利用が継続される施設です。同一建物内で対象・対象外が分かれる整理は、市民にとって理解しにくいものです。 公共施設等総合管理計画は市全体の公共資産と将来負担を扱う計画であり、その対象範囲の設定は、より広く市民に共有され、意見が反映されるべき重要な判断事項です。対象外とする判断自体を直ちに否定するものではありませんが、対象外とした理由や判断過程、想定される将来的な市民負担については、分かりやすく可視化し、市民意見を改めて反映させる仕組みを設けることを要望します。	アクションプランにおける更新費用算出の対象外施設につきましては、上位計画となる公共施設等総合管理計画にて、対象外としている施設を継承しております。 令和4年度の国の通知（総合管理計画策定指針の改訂）により、普通会計と公営事業会計を区分することとされたため、公営企業である市立病院は対象外とし、別途個別に検討することとしました。 また、現在のコミュニティプラザ（越谷サンシティ）は、公共施設部分（15,276.50㎡）と商業施設部分（39,537.20㎡）とで構成しており、ご意見のとおり、市が施設全体の維持管理・運営を行っております。令和8年度を目途に、「今後のサンシティのあり方に関する方針」を策定し、施設の再整備に取り組んでいく予定です。新たに整備される商業施設部分については、民間事業者の独立採算による維持管理・運営を想定しており、将来にわたって市が費用を負担するものではないため対象外としております。 今後、公共施設等総合管理計画を改訂する際には、改めて対象とする施設の範囲や将来負担の推計方法などを検討するとともに、市民との意見交換会を引き続き開催し、市民の意見も踏まえた上で、計画を策定してまいります。	②
3	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組	千間台記念会館の廃止案に反対します。せんげん台西地域のコミュニティの大切な場所です。	次のページに記載しています。	②
4	④公共施設の再編に係る施設の方向性 【P.33】	千間台記念会館の将来的廃止案について、この施設は、子供食堂でも利用しているため、子供達を守る意味でも残したい建物だと思います。		②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
5	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組 ④公共施設の再編に係る施設の方向性【P.33】	現在、千間台記念会館を卓球と英会話教室で週2回使わせて頂いています。古くなってはいますが、駐車場なしでも利便性が高く利用者も多くて、争奪戦になる事もしばしばです。代替として立派な施設(新大袋地区センター)もできますが、千間台地域の住民にとっては、距離もあり交通の便も悪く改めて不便さを感じています。65歳以上の利用者の方が多く、利便性は1番の重要事項になります。老朽化による安全性の問題もありますが、是非千間台エリアの住民の要望を踏まえて、この地域での活動拠点としての存続をお願いします。	千間台記念会館は、他の地区センター等に比べ稼働率が高く、公民館の分館としての継続が見込まれる一方で、施設が老朽化している現状を踏まえ、廃止の検討を行う施設の一つとして、本市より提案をいたしました。令和7年3月及び8月に開催しました、市民との意見交換会においても、多くの存続を希望するご意見をいただきました。 このため、本アクションプラン（案）の、今後の施設の方向性は、廃止を前提とした検討を行うものではなく、まずは施設の安全性を確認するため、耐震診断を検討するとともに、令和8年4月からの新大袋地区センターの稼働に伴う、千間台記念会館の利用状況等の変化などを検証の上、施設のあり方を検討する行動計画としております。 改めて施設のあり方を検討する際は、施設の利用状況のみならず、運営コストや、改修費用のほか、地域における施設の役割などを総合的に勘案し、千間台記念会館の方向性を決定してまいります。	②
6		千間台記念会館は、区画整理法に基づき整備された施設です。地元地権者により提供された公共施設です。地権者等の心情に鑑み、統廃合には配慮願いたいです。地域の「居場所づくり」「コミュニティづくり」の拠点施設として存続を望みます。 また、千間台記念会館内の調理室の利用状況が年間6%と低いため、経費を抑えつつ、再利用する方法について検討願いたい。		②
7		千間台記念会館は、健康維持のため利用しています。距離的にも無理なく通えるので、存続を望みます。		②
8		千間台記念会館は、大きな施設が周りに無いため、ふれあいの場として、とても役立っています。さらに、気軽に行ってみようと思える場所が無く、孤立してしまいがちですが、手ごろな位置にあります。若い人たちにも残してほしい施設です。		②
9		千間台記念会館は、ヒフミ卓球クラブの活動拠点であり、地域住民の健康維持や交流の場として重要な役割を果たしてきました。実際に、同会館は利用率が50%を超えており、多くの市民に継続的に利用されている施設です。 また、千間台西一丁目から三丁目における避難場所として指定されており、地域の防災面においても重要な機能を担っています。地域住民、特に高齢者にとって、身近に避難できる施設が存在することは安心・安全の確保に直結するものです。一方で大袋地区センターの建設完了後に廃止する計画が示されていますが、千間台記念会館の利用者が大袋地区センターを利用する場合、徒歩で30分以上を要します。利用者には後期高齢者が多く、長距離の徒歩移動や自転車での移動が困難な方も少なくありません。このような状況では、実質的に施設利用が継続できなくなるおそれがあります。廃止理由として、現行の耐震基準を満たしていない点が挙げられておりますが、耐震補強や用途を限定した活用など、存続に向けた代替案についても検討の余地があるのではないかと考えます。地域に根差した公共施設を単に集約するのではなく、利用者の年齢構成や移動手段、防災上の役割を踏まえた判断が必要です。以上の理由から、千間台記念会館については、地域住民・利用者の実情を十分に考慮し、廃止ありきではなく、存続または活用方法の見直しを含めた再検討を強く要望いたします。		②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
10	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組 ④公共施設の再編に係る施設の方向性【P.33】	千間台記念会館は、駅からも近く、電車利用者、近隣の人たちの利用頻度が高いこと、記念会館設立時の理念を保つこと等により、存続を強く希望します。 建物耐久性も心配ですが、子ども食堂、健康維持の卓球利用もあり、場所的には最高です。	千間台記念会館は、他の地区センター等に比べ稼働率が高く、公民館の分館としての継続が見込まれる一方で、施設が老朽化している現状を踏まえ、廃止の検討を行う施設の一つとして、本市より提案をいたしました。令和7年3月及び8月に開催しました、市民との意見交換会においても、多くの存続を希望するご意見をいただきました。 このため、本アクションプラン（案）の、今後の施設の方向性は、廃止を前提とした検討を行うものではなく、まずは施設の安全性を確認するため、耐震診断を検討するとともに、令和8年4月からの新大袋地区センターの稼働に伴う、千間台記念会館の利用状況等の変化などを検証の上、施設のあり方を検討する行動計画としております。 改めて施設のあり方を検討する際は、施設の利用状況のみならず、運営コストや、改修費用のほか、地域における施設の役割などを総合的に勘案し、千間台記念会館の方向性を決定してまいります。	②
11		千間台記念会館を残し、千間台の施設を減らさないとほしいです。千間台は市の出張所がないため、千間台記念会館に市の職員を配置し、出張所機能を持たせれば、有効に活用され、稼働率も上がると思います。また、選挙時の不在者投票所にするなど、もっと活用すればよいと思います。		②
12		千間台記念会館の存続を希望します。理由としては、ヒフミ卓球クラブ10数名で毎週卓球をしており、技術の向上と部員同士の親睦を深める大切な場として利用しています。近隣に記念会館のような施設は無いので、もし無くなると部員に60代～80代の部員もいて健康増進の場が近くに無くなり、医療、介護の面からも越谷市として得策ではないと思います。また、他のクラブ、例えば、詩吟クラブ、コーラスクラブ等も利用しているので影響があります。さらに、災害時の避難場所にもなっており、記念会館が無くなると別の場所を探す事になります。千間台には多くのマンションがあり、高齢者も多いので、この点からも記念会館の存続が必要です。		②
13		千間台記念会館は、現在、各種サークル等が毎日利用しており、地域の年配の方々の交流の場(生きがい)として根付いています。また、緊急避難場所として指定されており、昨今の異常気象状況等においては、地域の人々にとっては非常に重要な場所と考えられます。そして、各種のイベント(健康、安全講習会等)に近場の人々が、気軽に参加できる場所としても役立っています。これらの点からも、是非、千間台記念会館の存続をお願いします。		②
14		千間台記念会館は、地域住民のコミュニティ、ふれあいの場所としてとても重要です。何とか、耐震補強工事などで長く使える様をお願いします。新しい地区センターまで行くには遠く、高齢の方、足の悪い方などは、参加しにくくなります。		②
15		千間台記念会館が、廃止の方向とされていることを知り驚きました。今まで利用する機会はありませんでしたが、唯一、趣味で集会場を利用していました。近隣に公共施設があることで、地域の集会場、交流の場、自治会活動、災害時の避難・支援拠点として考えていました。この地区は集合住宅も多く、施設がなくなることは非常に生活に影響が出ると考えます。耐震化後に存続してほしいです。廃止の意向は反対したいと考えます。		②
16		千間台記念館の廃止案に反対します。地域のコミュニケーションの場になっています。コミュニケーションが希薄になっているなかで大切な交流の場になっていると思います。是非、存続をお願いします。		②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
17	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組 ④公共施設の再編に係る施設の方向性 【P.33】	千間台記念会館を廃止しても、次に何を建てるかによります。建物自体が老朽化してるのも、心配ですが、高層の建物は建てられない土地だと確認して、自宅を購入してますので、2階建て以上でなければ、そして越谷市民にとって有益な建物であれば（災害時に使える等）賛成です。高層の建物でしたら反対です。	千間台記念会館は、他の地区センター等に比べ稼働率が高く、公民館の分館としての継続が見込まれる一方で、施設が老朽化している現状を踏まえ、廃止の検討を行う施設の一つとして、本市より提案をいたしました。令和7年3月及び8月に開催しました、市民との意見交換会においても、多くの存続を希望するご意見をいただきました。 このため、本アクションプラン（案）の、今後の施設の方向性は、廃止を前提とした検討を行うものではなく、まずは施設の安全性を確認するため、耐震診断を検討するとともに、令和8年4月からの新大袋地区センターの稼働に伴う、千間台記念会館の利用状況等の変化などを検証の上、施設のあり方を検討する行動計画としております。 改めて施設のあり方を検討する際は、施設の利用状況のみならず、運営コストや、改修費用のほか、地域における施設の役割などを総合的に勘案し、千間台記念会館の方向性を決定してまいります。	②
18		千間台記念会館は、地域の集会、高齢者の交流地点、自治会活動、災害時の避難拠点、子どもの居場所、スポーツレクリエーション活動等の多くの住民が利用している大切な施設です。この施設が無くなると、地域の活動場所の不足、避難場所が無くなることで支障があり、また、さまざまな地域活動に支障をきたす事が懸念されます。千間台記念会館の廃止案には、断固反対致します。		②
19		千間台記念会館は、卓球で利用しています。高齢のため徒歩の人もあります。健康維持や親睦のため、是非、記念会館を残して欲しいです。		②
20		千間台記念館は、老朽化で危険なのかわかりませんが、残すべきです。また箱物を作って壊すの繰り返しになります。高齢者の集まる場所、地域の人の活動できる屋根のある施設は、残すべきです。地域住民のことをよく考えてみてください。		②
21		千間台記念会館は、地域コミュニティの場として活用してきました。また、被災時の避難場所として必要です。千間台の住民が避難できる場所を確保することが重要であることから、引き続き、記念会館の維持を希望します。		②
22		千間台記念会館が廃止されると大変困るため、存続を希望します。当該施設は、地権者が土地を出し合っで行った区画整理事業の完成記念として設置されたもので、指定緊急避難場所・指定避難場所にも設定されています。現在、地域の方々が高い頻度で使用しています。徒歩で行けなくなった場合、利用は難しくなります。加えて何かあった時の避難も難しくなります。当該地区は区画整理が完成して40年程度経過しており、75歳以上の高齢者も多くなっていますので、高齢者避難の観点からも当該施設の廃止は、問題が多いと考えられます。地域住民が必要とし、利用率の高い施設は廃止しない方が良いと思います。		②
23		千間台記念会館は、子どもが小さい頃に利用する機会が度々ありました。建物が廃止されてしまうのは残念なため、何かしらの形で存続させていただきたい。		②
24		千間台記念会館は、老朽化しているため、建て替えることを希望いたします。記念会館は、千間台西地区にとっては、公共施設としてただ一つの活動場所です。稼働率は現在の大袋地区センターより多く活動しており、防災の拠点としてもなくてはならない施設です。		②
25		千間台記念会館では、卓球部を45年間続けてきました。多くが70代から80代の年齢で、記念会館が廃止になると、遠くの新大袋地区センターまで歩いて行くか自転車で行かなければならず、とても不便になり、継続して使用できるようにしたいです。千間台記念会館は、健康づくりと交流に大きな役割を果たしております。大きな施設を拠点にすることも大事ですが、高齢者が多い千間台地区には現在の記念会館が必要不可欠です。		②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
26		千間台記念会館を利用しているため、残していただきたいと思います。地域住民が利用する施設は、徒歩または自転車で行ける範囲内に設置するべきです。自動車の運転をすることを前提にすると若い人しか利用できません。記念会館で、健康寿命を伸ばすための体操等のカリキュラムを充実させることを強く望みます。	千間台記念会館は、他の地区センター等に比べ稼働率が高く、公民館の分館としての継続が見込まれる一方で、施設が老朽化している現状を踏まえ、廃止の検討を行う施設の一つとして、本市より提案をいたしました。令和7年3月及び8月に開催しました、市民との意見交換会においても、多くの存続を希望するご意見をいただきました。	②
27	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組 ④公共施設の再編に係る施設の方向性【P.33】	千間台記念会館をフィットネスサークルで42年間利用しています。千間台地区に住居を構えサークル活動を通じ、和気あいあい健康づくり、仲間づくり、まちづくりを継続してきました。地域のつながりを大切に夏祭り参加、県立大学との連携など、地域に根差し健全で豊かな生活を送ってきました。 その大切なスペース・場の千間台記念会館が「廃止」の方向と聞き、ショックを受けています。今まで育んでいた活動はなくなるのではと、一方的な決定に憤慨と共に大きな不安に苛まれています。サークル立ち上げ時、40代だった住民は現在70代となり、千間台地区は高齢化しています。足腰が弱り、自転車や車の運転もままならず、身近な活動場所が頼りになり、重要です。地域の集い、高齢者の交流、こども食堂、災害時の避難・支援拠点など、身近な千間台記念会館は大切なスペース・場のため、なくさないでください。	このため、本アクションプラン（案）の、今後の施設の方向性は、廃止を前提とした検討を行うものではなく、まずは施設の安全性を確認するため、耐震診断を検討するとともに、令和8年4月からの新大袋地区センターの稼働に伴う、千間台記念会館の利用状況等の変化などを検証の上、施設のあり方を検討する行動計画としております。 改めて施設のあり方を検討する際は、施設の利用状況のみならず、運営コストや、改修費用のほか、地域における施設の役割などを総合的に勘案し、千間台記念会館の方向性を決定してまいります。	②
28	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (1)「目標1 建物の総量の縮減」に向けた取組 ④公共施設の再編に係る施設の方向性【P.33～34】	各地区にある交流館について、利用状況から「耐用年数前に順次廃止」の方向性には異論ありませんが、現時点で維持管理・環境整備が十分に行われていないと感じます。 冷暖房の修繕を再三願い出ても、市の担当者は聞く耳を持たず、現時点で管理出来ているとは到底思えません。 きちんと予算を計上し、維持管理だけは行うべきです。	施設の維持管理につきましては、毎年、施設の点検を行い、修繕が必要な場合は、予算を計上し対応していますが、市全体の公共施設等が老朽化しているため、施設によっては、修繕等に係る予算が計上できない場合もあります。財源不足により、通常の維持管理も難しい状況にありますので、本市としては、建物の総量の縮減や長寿命化の取組などにより、財源不足の解消を図り、必要な施設の適切な維持管理に努めてまいりたいと考えております。	②
29		南越谷交流館の廃止も含めた検討について、稼働率が低い原因はなぜでしょうか。近隣で卓球ができる貴重な場所でもあります。クーリングシェルトーとするなど、多くの人が使いたくなるような工夫をして集える場所にしてほしいです。	南越谷交流館の施設全体の稼働率につきましては、平成30年度から令和5年度の平均で35%となっており、全ての地区センター・公民館の平均約40%と比較しますと、低い状況となっております。多目的室は、特に卓球の利用が多くを占め、利用件数が多い一方、創作室の利用件数は少ない状況です。 特に卓球については、近隣の地区センター・公民館等で活動ができないかなど、代替となる施設を検討しつつ、廃止も含めた検討を行ってまいります。施設を維持している間は、より多くの方にご利用いただけるよう、施設の活用方法について、交流館運営協議会とともに検討してまいります。	②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
30	6 総合管理計画の暫定目標に対する取組 (3)その他の経費削減に向けた取組 【P.42】	官民連携（PPP/PFI）については、有効な選択肢の一つであるものの、すべての公共施設に一律に適用すべき手法ではないと考えます。国等から派遣される外部コンサルタントによる提案は、全国共通の成功事例を前提とした画一的なスキームに誘導されやすく、各施設の立地条件や利用実態、地域コミュニティとの関係性を十分に反映できないおそれがあります。制度ありきではなく、施設ごとに更新の緊急性や利用継続の必要性、代替施設の有無、地域への影響等を整理したうえで、導入の是非を判断するプロセスを明確にすべきと考えます。	官民連携（PPP/PFI）の導入につきましては、「越谷市PPP/PFI手法導入優先的規程」に基づき、導入検討を進める事業を判断し、対象となる場合は、サウンディング調査や簡易な導入可能性調査を行い、PFI手法であれば、さらにコンサルタントによる詳細な導入可能性調査を行ったうえで、慎重に判断し、導入を決定しております。引き続き、官民連携（PPP/PFI）を含めた効果的な整備手法を検討してまいります。	③
31	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 ①社会教育・コミュニティ施設を取り巻く現状と課題 【P.46】	地区センターや交流館など、市の施設運営管理は、多くを指定管理者に委託していますが、施設の維持管理が適切に行われているのか、財務諸表上の運用実態はどうなっているのか、これらを含めて、本当に指定管理者として適切か否か、また、指定管理者制度が健全に機能しているかを市民に公開・第三者の専門家によるチェックが必要だと考えます。	指定管理者制度につきましては、毎年、指定管理者による各施設の管理運営状況について、指定管理者からの事業報告書等をもとに評価を実施しており、外部の有識者で構成される「越谷市公の施設に係る指定管理者選定審査会」への意見照会を行い、維持管理が適切に行われているか等をチェックしております。 なお、指定管理者の評価表や同審査会の議事録については、市のホームページにて公表しております。	③
32	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 【P.47】	科学技術体験センター（ミラクル）が避難場所になっていない理由は、機械装置があり難しいためでしょうか。	科学技術体験センター（ミラクル）については、災害の発生や発生のおそれがある場合に、危険から逃れるための「指定緊急避難場所」に指定しております。 また、災害により自宅が被災した場合に、一時的に滞在し生活するための「指定避難所」にも指定しております。なお、避難所の開設は、災害の規模や種類、被災の状況などを考慮し、開設する避難所を決定しているため、すべての避難所を一齐に開設するものではありません。災害が予測される場合や、災害発生時の避難にあたっては、防災行政無線や、cityメール、本市のLINE及びホームページ等でご確認ください。	③
33	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 ④行動計画 【P.51】	千間台記念会館は、耐震化が未実施のため、耐震診断や長寿命化修繕等に費用がかかることが想定されるところの市の説明は理解できます。しかし、地域住民の生活に欠かせない居場所として多くの住民に利用されており、これからも地域密着の拠点的な施設としてなくてはならない重要な施設であります。 また、新大袋地区センターを補完する貴重な資源としても残していただきますよう、耐震診断をはじめ長寿命化のための修繕を行っていただき、できる限り、長く利用できるようにしていただきたいと思います。 そして、新大袋地区センターへの交通についても利便をはかっていただきたいと思います。	次のページに記載しています。	②

No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
34		千間台記念会館は、地域になくてはならない拠点施設です。高齢化が進む中、歩いて行ける範囲でなければ誰も集えません。新しい大袋公民館までの移動手段はどうなっていますか。高齢になれば運転免許返納、バス路線も充実していません。地域包括、防災の考え方も中学校区域で管理統括しているはずですので、これらと逆行しています。		②
35		千間台記念会館は、出来るだけ長く残して欲しいです。また、新大袋地区センター・公民館までの交通手段はどうなるのか、利用者・利用団体の時間割はどのようなのか教えてほしいです。		②
36		千間台記念会館は、地域住民の参加による稼働率も高く、災害時の避難所としての役割も持っています。施設を閉鎖後は、大袋地区に建設される「新大袋地区センター・公民館」が代替施設と聞いていますが、せんげん台地区からは成人でも徒歩で30分前後かかり、真夏の炎天下や真冬に高齢者が往復1時間かけて通えるとは思えません。バスはありますが、1時間に1本ではとても利便性が高いとは思えず、交通費も新たな出費です。千間台記念会館が老朽化しているのは事実として、補強工事や建替え等の存続に向けた再検討をお願いいたします。	千間台記念会館の施設の方向性につきましては、No.3～27の回答と同様です。 新大袋地区センターへの公共交通手段につきましては、「せんげん台駅西口線（大道循環）」等の3つの既存バス路線があり、平日は38本運行しておりますので、状況に応じて、これら複数の路線をご利用いただきたいと考えております。 なお、近年は生活スタイルの変化に伴う公共交通利用者の減少や、バス運転士の人材不足などにより、バス事業者からは、増便などの要望に対応することが難しい状況と伺っております。	②
37	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 ④行動計画 【P.51】	総合管理計画では、人口減少、少子高齢化が進み厳しい財政状況の中で、行政サービスを提供し続けるため基本方針を定めていますが、この4つの方針には概ね理解し賛成するものです。 千間台記念会館は、地域住民の生活環境にとって、なくてはならない地域密着型の拠点施設として多くの住民に利用されています。大袋地区の一地域ではありますが、大袋地区には50の自治会があり、とても大きく、人口も51,000人を超え、幸手市よりも多い地域があります。そのなかの一施設である千間台記念会館が無くなってしまふことは、非常に不便を感じざるを得ません。地区センターも、北部市民会館も、大袋北交流館も、そして千間台記念会館もそれぞれの地域でその役割を担っています。 まずは、未実施である耐震診断を早急に行うべきです。地域の避難場所になっているからです。その上で、市の財政状況を鑑みて、継続における経費の軽減案を考えていくべきではないでしょうか。 例えば、直営から指定管理者制度にするとか、地元の西連合自治会に業務委託するとかを検討してみてもいかがでしょうか。千間台記念会館は、埼玉県立大学との地域連携拠点として利用されています。 また、こども食堂としての機能、西連合自治会としての活動拠点となっています。 意見交換会での意見は、いわゆる総論は賛成だが、利害が絡む地域の方々は反対する傾向にあります。 『住んでよかった越谷市』として住民の幸福度を上げるためには、いずれは廃止となるようなことになっても、利便性を考慮し、代替施設として集約化されるであろう地区センターへの、バス運行を考えていく必要があるのではないのでしょうか。	今後につきましては、公共交通事業者と連携し、運転士の確保に向けた取組みを推進するとともに、令和7年12月から開始した75歳以上の高齢者を対象としたキャッシュレス運賃補助など、様々な施策を重層的に組み合わせ、持続可能な公共交通の維持・充実に取り組んでまいります。 また、新大袋地区センターの利用時間の区分についても、現時点では、変更はございませんが、今後の使用料の見直しと併せて利用時間区分の見直しも検討してまいります。	②



No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
38	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 ④行動計画 【P.51】	<p>現大袋地区センター・公民館の跡地利用について、新しい交流館をつくり、近隣の住人に使わせてほしいです。そのうえで、下記について希望いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい建物は公民館機能を持っていること</li> <li>2. 新方川・元荒川等の氾濫や水害への予防対策を施した建物にすること</li> <li>3. 夏休み中の屋外で運動をしている児童・高齢者の夏の猛暑対策として広い居場所を設けた建物にすること</li> <li>4. 内水氾濫の予防対策のため、新しい建物の地下に大容量の雨水貯留水槽を設置すること、また、周辺の道路の地下に暗渠を設置し雨水を溜め、その雨水は(仮称)第2ポンプ機場に誘導すること</li> <li>5. 利根川等の河川の氾濫による洪水対策として、建物は高床式建物とすること</li> <li>6. 高齢者のためのカラオケ教室や音楽の演奏が聴けるようなくつろげる広いホールを設けること</li> <li>7. 卓球や軽い運動ができる広いスペースを設けること</li> <li>8. 飲食行為のため、飲食のできる場所を設けること</li> <li>9. 調理室を積極的に活用すること</li> <li>10. 公民館に必要な設備を設置すること</li> <li>11. 地球温暖化対策を施した建物にすること</li> <li>12. 地上から屋上まで外階段で登り降りできるようにすること</li> <li>13. 現在敷地の周囲の土地を購入して、整形地とすること</li> <li>14. 新たな交流館は、主に大袋小学校、中学校周辺の住人が社会教育のため利用する施設とすること</li> </ol>	<p>本市の公共施設については、今後の人口推移や財政状況を踏まえ、公共施設に係る建物の総量の縮減などの取組を進めなければ、本市全体の行政サービスの維持に影響が及ぶものと懸念しており、原則として、新たな施設の建築は抑制していくものとしております。</p> <p>今後の施設のあり方を検討する場合には、防災機能や暑熱対策等につきましても、検討してまいります。</p>	②
39	7 用途分類別の行動計画 (2)社会教育・コミュニティ施設 ④行動計画 【P.51】	<p>現大袋地区センターを解体するのであれば、自治会によっては、高齢化が進み、新大袋地区センターへは思うように通えなくなるため、自治会総会、市民講座、防災訓練等の自治会活動に限り、新・旧大袋地区センター間に送迎バスを手配して頂きたいです。</p>	<p>地区センター・公民館の移転に伴いご不便をお掛けいたしますが、送迎バスの整備予定はございません。</p> <p>令和7年12月から開始した75歳以上の高齢者を対象としたバス、タクシーのキャッシュレス運賃補助をご活用いただくなど、公共交通機関の利用や、近隣の方同士による乗合にて、ご来館をお願いいたします。</p>	②
40	7 用途分類別の行動計画 (3)子育て支援施設 【P.53～62】	<p>子育て支援施設の統廃合は機能更新を軸に検討していただきたいです。</p>	<p>施設の統廃合についての具体的な検討を行う際には、施設の設置目的や役割、社会経済情勢の変化等への対応などを総合的に勘案し、検討を進めてまいります。また、検討の中で、現在の施設にある機能が今後も必要となれば、現在の社会経済情勢に見合った機能に更新することも必要であると考えます。</p>	②
41	7 用途分類別の行動計画 (8)学校教育施設 【P.71～78】	<p>学校教育系施設の改修に、特別支援教育の視点を明確に位置付けてほしいです。特別支援学級に在籍する児童生徒は市内でも増加傾向にあり、特別支援教育は一部の例外ではなく、標準的な設計要件として考慮すべき段階にあります。</p> <p>しかし現在の校舎では従来の間取りを踏襲した教室配置が多く、安心して学べる環境が十分に整っていない場面があります。実際に、学校内にクールダウンできる静かなスペースがなく、必要な時に入れず困った経験があります。</p> <p>改修や長寿命化にあたっては、バリアフリー化、多目的トイレ、クールダウン室の設置、照明や空調など感覚特性に配慮した整備を優先的に検討願います。</p> <p>特別支援児が安心して学べる環境整備は喫緊の課題です。</p>	<p>具体的な施設の改修にあたっては、特別支援児も含め、全ての児童・生徒が安心して学べる環境の整備に努めてまいります。改修の内容については、教職員などの学校関係者からの要望を聞きながら、可能な限り対応してまいります。</p>	②



No.	該当箇所	意見（要旨）	市の考え方	区分
42	その他 （施設再編の検討について）	利用率だけでなく潜在ニーズも評価指標に取り入れてほしいです。	施設の再編に係る検討にあたっては、地域住民や施設利用者の意見をはじめ、利用状況や運営コスト、施設の配置、交通手段など、さまざまな分析を行い検討する必要があります。 また、施設によっては、潜在的なニーズを把握する調査も必要な取組であると考えられますので、必要に応じて実施してまいります。	②
43		アクセス評価は距離ではなく移動時間と導線で判断してほしいです。	施設再編などによる、適正な施設の配置や施設までのアクセスの検討については、施設によって、主に利用する方の状況や交通手段をはじめ、駅からの距離やバスなどの公共交通機関の運行状況のほか、施設にアクセスするまでの歩道の整備状況や、交差点改良の必要性など、総合的に判断してまいります。	②
44	その他 （公共施設の更新について）	公共施設の更新にあたっては、スクラップ＆ビルドを前提とするのではなく、仮設建物の設置を極力伴わない更新手法を基本とすべきです。仮設建物は、工事費や工期の増大、市民サービス低下の要因となりやすく、段階的改修や機能更新、用途の柔軟な見直しにより、利用を止めずに施設寿命を延ばす考え方を計画の基本姿勢として位置付けることが重要です。 また、複数施設を段階的に更新する過程で仮設対応が避けられない場合には、新たな仮設建物を設けるのではなく、既存建物ストックの活用を優先すべきと考えます。例えば、サンシティ商業棟内の空きテナント区画を工事期間中の一時的な公共機能の受け皿として活用することは、コストや工期の抑制に加え、市中心部でアクセス性や安全性を確保しやすい点から、市民にも直感的に理解しやすい合理的な方法です。公共施設更新は、建物単体の建替えではなく、一定期間まち全体の空間を使い替えながら市民生活を止めずに進めるプロセスとして捉えるべきです。	公共施設の更新につきましては、施設ごとに利用者への影響を考慮し、工事手法や工事時期等を検討しております。 いただいたご意見については、今後の施設更新等の参考とし、市民生活に極力影響が出ることのないよう、既存施設の利用や仮設建物の設置等、代替施設を検討してまいります。	③